



サバの解体



令和5年度広報 第35号
令和5年11月14日(火)
社会福祉法人晋栄福祉会
大阪市立北恩加島保育所

11月7日(火)に乳児クラス、11月14日(火)に幼児クラスで、給食室の先生にサバの解体を見せてもらいました!「魚にも口があって、手もあるんだよ」と教えてもらおうと、どこどこ?とのぞき込んで見ていました。いざ、解体が始まると「なんか出てきた…」「血が出てる!」驚きがありました。さばかれた魚を触ってみると、「柔らかい…?」「目がある」とツンツン触ってみて、いろんな発見を感じていました。また、給食室の先生からは、食べることは命を頂いていること・食べるまでに魚を海から取って来てくれる人、運んでくれる人、調理してくれる人などいろんな人が関わって食べることが出来るというお話を聞きました。子どもたちは、「え…そうだったの!」と驚いた様子でした。給食では、サバの味噌煮が給食になって登場!感謝の気持ちを込めて「いただきます」と言って、みんなでサバを美味しく頂きました。食べることって、どういうことなのか。また、ご家庭でもお話をしてみてください。

魚の目はどこかな?
手はどれだろうね?



つんつんつん・・・
これが骨・・・?

どんな感触か触ってみよう!



生きてるものを頂いて、
色々な人が関わって食べることが
出来ているよ。
だからありがとうの気持ちを込めて
「いただきます」なんだよ。